

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	これまで見逃されていた好塩基球の存在意義と病態形成における役割
研究代表者	烏山 一（東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授）
研究期間	平成27年度～平成30年度
審査結果の所見	<p>本研究は、免疫・炎症反応でこれまでよく知られていなかった好塩基球の病態生理的役割を解明しようとする研究である。研究計画としては、遺伝子改変マウス等を用いた実験病理学的、分子生物学的手法を中心とし、さらには、動物実験で得られた成果をヒトの疾患への応用も見据えた内容を包含している点で、高く評価される。</p> <p>応募者は、これまでも好塩基球に関する高いレベルの研究を推進してきており、今後も継続してさらに優れた日本発の知見を積み上げていくことにより、アレルギー疾患や寄生虫感染に対するワクチン療法開発への展開が期待できる。</p> <p>以上の理由により、本応募課題を基盤研究（S）として採択することが適当と判断した。</p>